■河合曾良　　俳人。短期間ながら，「おくのほそ道」同行はじめ芭蕉の一切を世話し，幕府隠密説も。
かわいそら
慶安御触書・1649＝　　信濃国下桑原村(諏訪市)で，高野七兵衛長男に生まれる。近所の母の里銭星河西家に引き取られ，

徳川家光没・1651＝ 2歳：

間もなく伯母の嫁ぎ先福島村の岩波家の養子となり，岩波庄右衛門正字(まさたか)を名乗る。

明暦の大火・1657＝ 8歳：
人身売買禁止1658＝ **9歳：**

・・・・・・1660＝11歳：養父母が相次いで死去したため，伊勢長島の真言宗大智院在住の縁者を頼る。

酒井忠清大老1666＝17歳：
入鉄砲出女令1667**＝18歳：**
足利学校再建1668＝19歳：この頃，長島藩松平良尚に仕官し，河合惣五郎と称する。

・・・・・・1676**＝27歳：**_**曾良の俳号で歳旦吟(初見句)。**

徳川綱吉将軍1680＝31歳：
天下一禁止・1681＝32歳：この頃，長島藩を致仕して出府し，吉川惟足の屋敷に一室を与えられ，″吉川神道″を学ぶ。

八百屋お七・1683＝34歳：_**山梨に滞在中の芭蕉を訪問し，芭蕉との交友が始まる。**
堀田正俊暗殺1684＝35歳：
出世景清初演1685**＝36歳：**この頃，江戸深川五間堀に居を構え，晩年までここを本拠とする。

生類憐令始・1687＝38歳：***芭蕉の鹿島詣(鹿島紀行)に，宗波とともに同行。**
日本永代蔵・1688＝39歳：髪を剃って法体となり，宗悟と改名。
・・・・・・1689＝40歳：***芭蕉の″おくのほそ道の旅″に路通に替わり同行が決定。行脚予定コースの延喜式神名帳抄録および名勝備忘録を作成し，資金面も担当。芭焦とともに江戸深川を出発。千住から行脚を始め，日光から松島，羽黒山，金沢等を経て山中温泉に至る。山中温泉滞在中，腹を病み，芭蕉と別れて先行，大垣を経て長島大智院に至り，休養後，大垣に戻り芭蕉と再会。案内して大智院入り，再び，芭蕉と別れ，江戸深川に帰る。**
別子銅山始・1691＝42歳：***芭蕉に江戸下りを勧めるも応じられず，伊勢長島を経て京都入り，寺社を隈なく踏査した後，奈良で芭蕉に会うも芭蕉が身体衰えていたため，一人，吉野を精査後，下市の広橋家訪問。伊勢神宮に参り，長島に潜在後，江戸に帰庵。(「近畿巡遊日記」を遺す)**
この間，芭蕉は江戸に戻り，自らは武家に奉公していたらしく，
芭蕉+師宣没 1694**＝45歳：**この年，神道の師吉川堆足が死去。***芭蕉が郷里伊賀上野に旅立つにあたって，自ら清書したと思われる「おくのほそ道」を与えられ，箱根まで見送って別れた後，芭蕉が大坂で客死したとの訃報を受けるも葬儀に行けず，同門俳人らと追悼歌仙を巻く。**
生類憐令頂点1695＝46歳：
_**以後の動静はほとんど分からなくなり，**
赤穂浪士討入1702＝53歳：更科に行脚し，帰途，郷里諏訪に立ち寄る。
赤穂浪士切腹1703**＝54歳：**

乞食に変装して九州にいたらしく，

徳川綱吉没・1709＝60歳：幕府派遣の第4回諸国巡見巡見使の随員(九州方面担当)に任命され，
・・・・・・1710＝61歳：江戸を出発。岩波庄右衛門の本名で，書院番士屋数馬喬直率いる班に属し，唐津領巡見後，壱岐島に渡り，対馬出発に備え乗船するも，連日悪天候のため壱岐にとどまるうち，宿舎の海産物問屋で，_**病死したとされるが，その形跡は無く，**

徳川吉宗将軍1716＝67歳：_**並河誠所の紀行文「伊香保道記」に出てくる伊香保の榛名神社の洞窟に住む不思議な老人が曾良ではないかという説がある。**

村松友次「謎の旅人 曾良」，中名生昭「奥の細道の謎を読む」，平凡社百科事典。インターネット，